

茅ヶ崎同盟教会月報

— 2017年1月号 —

勤勉で怠らず、霊に燃え、主に仕えなさい。(ローマ人への手紙12章11節)

253-0054 茅ヶ崎市東海岸南2-11-17 Tel&Fax.0467-82-3076

<http://members2.jcom.home.ne.jp/chigasaki-doumei-kyoukai/>

(「茅ヶ崎同盟教会」で検索できます)

「聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。それは、神の人が、すべて良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです。」

Ⅱテモテ3：16, 17

私たち日本同盟基督教団の教憲は前文につづき、「聖書信仰に立って次の信仰を告白する」として第1条第1項に次のように記されている。「旧、新約聖書66巻は、すべて神の靈感によって記された誤りのない神のことばであって、神の救いのご計画の全体を啓示し、救い主イエス・キリストを顕し、救いの道を与える信仰と生活の唯一絶対の規範である。」

ウエストミンスター信仰告白1章2には「聖書すなわちしるされた神のみ言葉という名の下に今では旧新約聖書のすべてが含まれている」として旧新約聖書66巻が書かれている。さらに1章3では「普通に経外典と呼ばれる書は神の靈感によるものではないから、聖書の正經典の一部ではない。」としている。神の靈感によって記された神のことばのみが正典となる。

では神の靈感とはいかなるものであるか。B.B. ウォーフィールドは著書「聖書の靈感と権威」において「靈感とは、通常、神の御霊によって、聖書記者に与えられた超自然的影響であり、それによって彼らの著書が神的な真実性をあたえられるもの」と定義している。「主のことばによって、天は造られた。天の万象もすべて、御口のいぶきによって」(詩篇33：6)「御口のいぶき」とは神の息であり、聖書記者に与えられた神の靈感である。

ダビデはつぎのように言う。「主の霊は私を通して、語り、そのことばは私の舌にある。」

(Ⅱサムエル23：2) 私が語るのではなく主の霊が私を通して語られる。ペテロも「なぜなら、預言はけっして人間の意思によってもたらされたのではなく、聖霊に動かされた人たちが、神のことばを語ったからです。」(Ⅱペテロ1：21)「預言」とは旧約聖書を指す。ウォーターフィールドは「聖霊にうごかされた」は「聖霊に負われた」ということで、聖書記者は自分自身の力によらず聖霊に負われて語ったという事で、それは直接的な神のおことばであると述べる。

18世紀の啓蒙主義は理性がすべてとして、聖書の靈感や権威を否定した。自由主義神学も同じように聖書の靈感、奇蹟をも否定した。「自由主義はキリスト教とは異なる宗教である」とまで言われた。しかしその流れを汲むリベラリズムや新正当主義は健在であるが、私たちは、旧新約聖書66巻は神の靈感によって書かれた誤りない神のことばであり、信仰と生活の規範として信じ、さらに揺らぐことのない信仰を常に持ちつづけるためにも冒頭の信仰告白を告白し続ける者でありたい。告白は神の恵みへの応答であるから。

新しい年、神さまの御口のいぶきを日々聖書からいただけますように。 伝道師 川島正子